

【今回の兼題】

- ① 芒 すすき ② 烏瓜 からすうり



からすうり

作り売る「芒みずく」鬼子母神
放つ彩人を拒むや烏瓜
牛膝湯いた皮膚を好みけり

えり

由美

綾子

○カフェのロボコーヒーカタンと秋の午後

○欠伸して満月朝のラッシュ見る

為政者の殺戮は正義さんま食う

懐しき脱穀の音や秋も逝く

季めぐりいつのまにやら芒ゆれ

花言葉 ”よき便り“ らし烏瓜

富子

農子

叢の輝く芒猛々し

薄闇の花鳥瓜白く浮く

びっしりの草の実除く無駄話

○風に酔ひ星にうつとり夜の芒

○憧れて夕日の色に烏瓜

○野仏は伏し目の童女木の実雨

千代

初江

○手を挙げる芒の中を来るバスに

○子の部屋の宝の箱のからすうり

○秋高しバスに乗ろうか歩こうか

郁子(岡)

風そよぐ坂道コロリ栗笑う

いつのまに西も東もハロウイン

薄ゆれ荒涼続く山河かな

丞子

日をのせて一閃の光芒すすき原

花嫁のお色直しや烏瓜

「柿ゼリー」スプーンの先の熟柿かな

紀美

○スーパーの花売場にも芒かな

一人居の夕餉は秋刀魚かば焼に

新涼やメモで埋まったカレンダー

瑞枝

○秋天をあまた気球に明け渡し

毬栗や始終いらいら十五歳

余生とは風まかせなり芒原

迪子

遊ぶ子らコスモス畑で見え隠れ

遠い日に桔梗で見舞って去った人

身の丈の幸せ味わう南瓜かな

郁子(土)

○暮れなずむコスモスの丘風の丘

○真の闇地虫にはもるちちろ虫

見渡せば芒銀波に夕日光

恵子

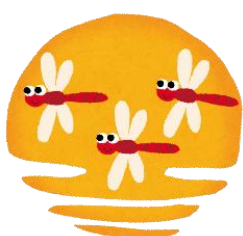
○黒い眼と青い眼の遍路秋うらら

恐竜ののたうつごとし芒原

烏瓜に烏瓜と烏瓜



眠れずや夜長に掻し足の裏
町々に熊の影あり嘆きあり
開け放しし窓から明るき鴉の声



味元 昭次 作品

芒野の風より軽き組閣かな

芒原黄泉より呼んでいるような

「英霊の家」ありました芒原

★次回市民句会

【開催日時】

令和七年十一月二十六日(水)

午後一時十五分～午後四時(予定)

【場所】

オーテピア4階 研修室

【兼題】

- ① 小春日 ② 狐 ③ 狸

(他の題材でも構いません)

【初めての方へ】

市民句会は、俳句愛好者の集いです。
どなたでも自由にご参加いただけます。
事前申込や参加費は不要です。